

計画事業番号	648	事務事業名	老朽管更新事業	担当部署	水道部水道施設課	電話	4323
--------	-----	-------	---------	------	----------	----	------

【基本情報】

事務区分	自治事務 法定受託事務	根拠法令等	水道法第2条第1項				
事務事業開始年度	平成14年度	個別計画等	老朽管更新事業計画(H14～H33)				
終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	企業会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第5章)	快適な生活環境のまち
	(第5節)	水道の整備
	(施策3)	施設の維持
2 対象	老朽化した配水管・水道施設、水道使用者	
3 目的と内容	老朽管更新事業計画に基づき、老朽化した配水管を更新し、漏水事故等の未然防止と有収率の向上を図る。基幹的配水管の劣化度調査及び水道施設更新計画を策定する。	
4 実施内容(手段)	2019年度まで	老朽管更新については、平成10年度に老朽管更新事業計画書を策定し、平成14年度よりこの計画に基づき事業を実施している。 令和元年度は、老朽管更新 L=2,534m実施した。
	2020年度	昨年と同様であるが、令和2年度は、老朽管更新 L=2,210mの施工を予定している。 尚、全体の更新率が90%を超えたことから、残事業は継続すると共に、第二期として新たな地区を選定し年次計画を策定し更新を行う。

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
配水管更新工事	配水管更新工事	配水管更新工事	/	/

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。北広島市上下水道事業が引き続き実施する。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			140,903		175,990					
事業額	直接事業費	国支出金	0		0					
		道支出金	0		0					
		地方債	106,800		0					
		その他特財	2,501		0					
		一般財源	31,602		175,990					
		合計	140,903		175,990					
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	人数(年間)	2.00	0.00	2.00	0.00					
	1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500					
	= ×	16,400	0	16,400	0					
総事業費 +			157,303		192,390					

【評価指標】

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
活動指標	改良延長(工事延長)	目標値	2,690		4,326					
		実績値	3,407							
	更新延長(更新された管延長)	目標値	2,170		3,776					
		実績値	2,534							
更新管延長累計	目標値	88,181		91,957						
	実績値	89,460								
成果指標	老朽管更新事業の達成率 【更新延長累計 / 更新計画延長(100,071m)】	目標値	88.2		91.2					
		実績値	89.4							
	【指標の定義(算式等)】	目標値								
		実績値								
【指標の定義(算式等)】	目標値									
	実績値									

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	北広島市上下水道事業が事業主体で、水道利用者に安心・安全な水道水を供給するための事業であり、事業の有効性・公平性は確保されており貢献度は大きい。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	事業施工地区の配水管漏水件数減少や、水道水使用有収率が向上していることから、成果は上がっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	給水管切替箇所を公道内で行っているため、メータ-までの給水管の漏水事故を考慮すると、メータ-までの給水管切替が有効と考えられるが、個人負担が発生する。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	配道管はコスト高の耐震管により施工しており、新設管のダウンサイジングや道路改良工事との同時期発注などでコスト縮減を行っているため、これ以上のコスト縮減は困難である。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	法律の義務付けあり	法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	民間等での実施または市民等との協働が可能である。 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。	